

日本労働新聞

発行所 日本労働黨本部
 東京市芝区芝公園五丁目四番
 振替口座東京二七五二番
 印刷人 平野 早
 電話 五五五

遂に人を殺した

政醬油工場主

不潔極まるその工場

原料は腐った豆粕諸味だ 非道な彼の行を見よ

去る一月二十四日中野町浅田屋醤油工場主浅田政吉が事業不振の名の下に従業員十八名を餓首したのに憤慨した全従業員は二十六日以来町民の絶對的聲援を背景に勇敢に闘争してゐる、彼淺田政吉は、印醬油の醸造元であるが、人格劣等、只に労働者の敵討りでなく一般町民の敵であり、鬼淺政と稱せられてゐる彼の私生活の罪悪は殆んど筆端にし得ざる醜汚なものもあるがその一端を記せば

一、食醬油の原料は豆粕、玉蜀黍と醬油粕で殆んど食ふに足りぬものである、別けて震災當時の如き腐敗した諸味から醸造して賣捌いた、

一、諸味樽の中には死んだ鼠、猫、犬、蛇、さては鳩糞で一杯である、

一、小学校五十年祭に豊萬圓寄付するとして未だに寄附せず、

一、事業不振と稱しながら現在立派な普請中である、

一、食糧品工場中非衛生極まること天下第一、これが改良を要求する従業員を遇すること牛馬の如く彼に加擔するものは浅田銀行のみである故に従業員の正義の戦に日給十五圓の暴力團を雇入れ従らに町の安寧を亂してゐる、

夫故町民も従業員と共に聖戦に加はつてゐる、正義の士は起つて彼を膺懲せよ

死して

浅政を葬る

木村君の自殺

悪鬼淺政の暴戻に對する争議團の闘争が、いよいよ白熱化して來た二月一日朝、争議團員木村拾次郎君(四十七歳)は中野の實弟木村由藏君の家に於て突然肥後守を以て咽喉部を掻切

り、「今に見よ、必ず暴虐な淺政をあつてやる」と叫びながら倒れた、別室に寝て居た由藏君は神驚に驚き、急を争議團本部に傳へると共に、新

御大喪日には 争議團も休戦

自發的に二日間謹慎

鬼の如き淺田工場主を徹底的に葬り去らんと、社會的正義の爲め猛烈な闘争を續けてゐる日本労働組合同盟関東合同労働組合中野支部争議團も、來る七日八日の御大喪日には哀悼の意を表して自發的に休戦し、牙を納めて只管謹慎する筈である、而して此の國民的哀悼日を経たのちは、再び破刑の劔を執つて決戦せんものと意氣天を衝いてゐる、既に各支部並に一般町民の同情應援は熱烈を極めてゐる。

井の織本醫院にかづき込み應急手当を施した、傷口は四寸に及んで流血淋漓たるものがあつたが、餘病を發せざる限り生命には別條ないと云はれてゐる、濃厚な捨次郎君が自殺を決行したまでには聞くも凄ましい哀話がある、同君には四人の愛兒があり、妻君は目下臨月の身重で併も鬼政の爲め今回解雇を申渡された一人である、妻をかへて失業、殘された途は只死であつたのである、此の悲壯な一件に依つて捲き起された争議團のセンチシシシは異常を極め皆て工場寄宿舎に於て激勞の結果同志一人病死したとき、一滴の涙さへない工場主が、恰も大猫の死んだかの様に醬油袋につめ込んで裏木戸から放りだした昔のこと、または病床の布團が醬油袋で出來た七黄目もする不衛生なものであるのを思ひ起して復仇の念に燃えてゐる。